

ふくしま県人会だより

第45号
令和4年1月
福島県人会
北海道連合会

福島県人会北海道連合会長

新年あいさつ

福島県人会北海道連合会

会長 近藤 康弘



県人会の皆様お元気で新年を迎えられたことと思いますが、多難なこの一年を県人会員の皆様と共に無事故でこられました。

福島県人会北海道連合会は、昭和四十八年五月に、函館市湯の川温泉にて、全道より六十二名が参加され、

第一回目の結成大会が行われてから、今年令和四年に第五十回を迎える事となり、歴代の会長の御苦労を振り返って見れば、災害があり、特に福島県に於いては震災があり原発事故も起きてしまいました。

来たる三月十一日で十一年を迎えますが、区画も整備され、農産物や水産物も安心して食べられるようになって安堵しております。

又令和二年冬頃から世界的にコロナウイルスが蔓延し、会合も行なえずに今日迄来てしまいました。令和三年六月頃よりワクチン接種によって、十一月頃よりコロナ禍の数も減って来ました。

ワクチンの効果が六ヶ月という事で、第三回目の接種が十二月頃から実施されそうですが、私達は油断せずに三密を守り行動していただ

きたいと切に願うところです。

さて、令和三年十二月に役員会を開催し、数々の懸案事項も協議した中で、第五十回となる連合会総会を、支障がなければ網走市の網走湖荘にて、令和四年五月二十八日（土）～二十九日（日）に行いたいと、美幌県人会と別海県人会が協力し合っており、総会に向けて準備を進めておりますが、全道の県人会の御協力を賜りまして開催に全力で前進あるのみです。

又母県訪問の実施についても、総会後の九月頃に話を具体的に進めたいと考えておりますが、その時節が来たら協議したいと思えます。

最後に総会に向けて、この北の大地に是非とも、福島県内堀雅雄知事を迎えたいと全員で願っております。

知事の御健康と御多幸を心からお祈りいたすと共に、全道の会員の皆様が楽しい新年を迎えられる事を念じて挨拶とさせていただきます。

福島県知事

新年あいさつ

「県民みんなで創り上げる

福島の未来」

福島県知事 内堀 雅雄



謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

福島県人会北海道連合会におかれましては、昭和四十八年の発足以来、ふるさとを同じくする方々の心よりどこころとして、会員相互の交流を深められておりますことは、誠に喜ばしい限りであり、心から敬意を表します。また、会員の皆さんにおかれましては、本県に格別のお力添えを賜りまして、厚く御礼申し上げます。

試合があった日には結果をチェックし応援しています。いつか甲子園に出場し福島代表と試合をするこ
とがあつたらと思うとワクワクし
ます。

最後に、福島との接点を持ちたい
と思い、このたび北海道の福島県人
会に入会させていただきました。福
島にゆかりのある皆様と交流が持
てることを楽しみにしています。今
後ともよろしくお願いいたします。

溪流魚を焼いて食す

函館福島県人会

副会長 藁谷 茂

私の故里は現在のいわき市三和
町の山の中である。小中学生の頃、
タンパク源の入手法のひとつに川
魚を獲る事が必須であつたのだろ
うか、主に岩魚であつたが、釣る、
掬う、銚で突く等で獲つていた。そ
れなりに楽しめたものであつた。

年経て就職後、転勤で積丹半島の
山中に在ったマンガン鉱山へ赴任

する事になり、そこで溪流釣の先輩
に山女魚と岩魚釣りを教わる事にな
つたのである。その後東京へ転勤
になり、種々の事情により現在函館
に永住する事になつたのであるが、

その永住になる理由の大きな事は、
道南には溪流釣師にとつては垂涎
の的となる美しき溪流が沢山有る
と云う事である。何れの河川も美し
く溪流達が群れ、釣れてくれ、美味
しく食べさせてくれる。この恵みに
甘んじて五十年近くを楽しませ、生
きさせてくれ、八十一才の年を迎え
て居る。

扱てこのコロナ禍の中、三密を避
ける最良の趣味である溪流釣り、今
年中に五回目を数える釣行(半数は
釣友と半数は単独行である)をして
来た。コロナも収まりつつあつた十
月二十四日に県人会有志を募つて、
冷凍し保存して有つた虹鱒、山女魚
岩魚を近くの茂辺地川河畔で焼い
て食べて、うつぶんを晴らそうと集
つた六名で行つた。天候に恵まれ川
を流れる水の音と染め始まつた紅
葉の中で、塩味、味噌味で食す魚の
美味しい事美味しい事、ビールやアルコ

ールの喉ごしは最高であつた。熊笹
で作つた竹串に刺した魚を炭火の
廻りに刺して焼いたり、金網の上で
焼いたりと夫々手をかけて焼いて
食べた。副会長の西田さんが「さつ
まいも」を持つて来てくれて、炭火
の中に入れて焼いて頂き、それも食
すと云う秋晴れの中の楽しい催し
となつたと思う。参加人数が少な
いのが少し残念ではあるが、何処の支
部もかかえる現状ではあると思わ
れる。それでも心有る県人有志が集
える機会が在る事は、心を古里福島
県に飛ばし、自分の出生地に改めて
想いを馳せる事になる良い機会だ
と考えている。



【県人会有志と河畔でのひととき】

いか人参のはなし

旭川福島県人会

幹事長 圓谷 清

以前にテレビ番組県民ショーで、
「これさえあればおかずは要らな
い」というもので紹介された福島県
の食べ物、「いかにんじん」があり
ました。

スタジオでは大好評で、福島県民
としてはとても嬉しい気持ちで見
ていました。

また、十二月二十三日のHBCラ
ジオの朝の番組中、料理家から作り
方から保存方法まで約十分間も紹
介されて、通勤中車のラジオで聴い
て、ふくしまの一品を紹介してい
ただいて、朝から嬉しい一日でした。
福島県北地方から始まつたとい
うことで、作り方はごくシンプル簡
単で僕が言うまでもなく皆様を知
つている福島の味と思います。

家庭ごとの作り方があり家庭ご
との味があり、昆布を入れるところ
もあるということで松前漬けに近
いところもあるそうです。松前漬け

はいか人参から始まったとも言われています。

冬になると、母からの野菜・漬物の贈り物の段ボールの片隅に入っていて、近所の方・妻の実家へ届けて美味しいといわれたものでした。

その味は今、実家の義姉に受け継がれ帰省の度に食べさせてもらってありがたいことです。我が家の味はとてもシンプルで、シャキシャキ感のいか人参です。以前、いか人参を作るため母と会話をしながら、いか（するめ）をハサミでチョキチョキ切ったことが懐かしく思います。

そして近年、妻も度たび作ってくれるようになりました。福島に行く度に食べているので、簡単手作り一品になったようです。初めはしつくりこない味でしたが、姉に電話で、また帰省の際作り方を教わり、今では簡単手作り一品になりました。いか人参食べたいなあと妻に頼むと近日中にスルメイカを買ってきて作ってくれるようになりました。でも買ってくるのは珍味のスルメの時もあります、いかのスイスイ泳ぎのようにすいすい作ってくれる

ようになったので、いか人参の話題でもあり家庭円満になり「良かった」〈良かった〉です。



【ふくしまの「いか人参」】

全道福島県人会、令和四年度総会 に向けて

美幌町福島県人会

副会長 前崎 孝子

師走も目の前になりコロナも少しおちつきを取り戻してきたようですが、まだ落ち着かないこの頃ですが、皆さんにはどのようにお過ごしでしょうか。

ふるさと会津の想い出

美幌町福島県人会

事務局長 大竹 啓

美幌町福島県人会は先日久しぶりに短い時間でしたが役員会を行いました。役員の方々の元気な笑顔に会って今迄のストレスが一度に飛び去った思いでした。

近藤会長は、この感動を是非本年の全道大会には会員の皆さんにも感じてもらいたく、安心して開催出来るように頑張らなくてはと強い気持ちで取り組んでおります。

美幌町福島県人会は少人数での担当ですので、各県人会の皆さんの協力が一番嬉しく思います。

私たちも福島県北海道事務所のお手伝いをさせてもらいながら出来る限り頑張りたいと思っております。只何よりコロナが収まってくれるのを待つ事ですね。

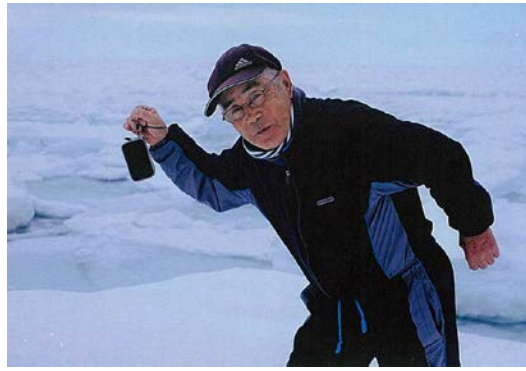


昔々その昔、今から七十年前の事。故郷の山々の大木が製材工場へ建築材として、又木炭一般家庭用商品に出荷された。山が丸坊主にされ、遠く近くの山は小さく本当に可哀想な物体にしか見えませんでした。川では真夏日には泳ぐことと岩魚、メダカ、魚を取って良く遊ぶこと、支流小川では沢蟹捕りなどが一日の日課でした。

久しぶりに帰省して、あの山々が丸坊主であった山が大きくなっているのではないかとよく聞けば山は昔のままです。地殻変動ではなく木々、杉の木、樺、雑木林等が成長し、故郷に帰っては笑い話になった。コロナ禍で二年間援農中止してしまつた田植、稲刈り等ご無沙汰していますが、あのふる里の山々は大きくなつたのだろうか。又沢蟹、メダカ、泥鰌などは小生の帰りを待っているだろうか？世界に猛威を

振るったコロナウイルスは今年終息しようとしております。皆様も負けずに頑張ってください。

今年には福島県人会北海道連合会総会をホテル網走湖荘にて開催の予定です。観光名勝としては蝦夷地知床半島、東藻琴芝桜公園、君の名の幌峠、網走監獄博物館、北見薄荷記念館…。多くの参加を待っております。



【デジタルカメラで魚釣り】

コロナ禍に負けないで頑張ろう…

別海町福島県人会

事務局長 大内 照雄

忍び寄る新型コロナウイルス感染拡大、我が身を守るには自粛生活を余儀なく二年近くも、こんな生活、マスクなしでは、世間が許しません。

当県人会もその後、何一つ交流会、会員の顔合わせも無く、時と時間が過ぎ去りました。一体、コロナとは何だ、この菌は、人間社会を脅かし、近年の社会環境を壊し文化活動に障害をもたらし、腹を立ててもどう仕様もありませんが、ただ時の過ぎるのを待つしかありませんでした。ワクチン接種受け、少しは安心したが、でも免疫の切れる八カ月以降三月にかけて三回目を実施されようとのこと。しかし、いまのところマスク着用以外名案がありません。本当に人類の最大の危機以外何物でもない。

まずはコロナが過ぎた時、現会員の老齢化と行動力の減少、それをどう繋ぐことを暗示？

しかし、只々手をこまねいて何もしないのも腹が収まらない。そんなときこんなことを思いついた。

時折、県から送られるチラシ等を持参して会員宅に何気なく訪問。高齢の為、家族の体調の変化、健康管理又、景気、仕事、近況状況の聞き取り、会員たちも喜んで僅かな時間だが対応してくれた。

過去に利用したホテル、二次会でのスナック、今はどう変わったか、聞いて確認したいことが山ほどに話題は多く、思い切って地元の県人会だよりを発行することを考え、即ネタ集め。

二〇二〇年八月第一号を発行配布した。何処まで続くのか自信はありませんでしたが、二〇二一年新年号第四号（カラーに変更）、現在十一月第十三号発行配布。よく続いたこと。内容の一部には時々（元気の会員の今を紹介、本人写真入）を設け、会員にご協力を戴き感謝をしながら続けたいと思っています。

今回は新年号、第十四号どうしようか？まだ考えが浮かばない？

会員とのつなぐ気持ちを大事に考え、やるなら元気な今のうちに。大きくなった孫に爺ちゃん徘徊しないでねと、言われながら頑張つ

ています。

コロナに負けずに会員、家族の皆様何時までも元気で宜しくご協力のほどをお願い致します。



【これまでに発行した県人会だより】

「パークゴルフを楽しもう会」

の結成

苫小牧福島県人会

事務局長 大槻 正吾

苫小牧福島県人会は、会員・家族の親睦と健康維持のため令和元年に吉成幹事長の発案で、苫小牧市に数多くあり、また近郊にも存在する

誰でもが気楽にできる老若男女のスポーツとして「パークゴルフ」はどうかと言うことで早速計画しました。

当初は、何名の会員が集まるか心配をしながら、希望のアンケートを実施した結果は十五名の入会者がありました。

初回は、十一名が参加して、令和元年十月二日に名称を「パークゴルフを楽しむ会」代表者を吉成幹事長として、市内運動公園内金太郎池のパークゴルフ場で開催した。大会形式とはせず、青空の下で歓談しながらゆっくりとメンバーを変えながら楽しく三十六ホールを回り一日を過ごすことができた。

令和二年度は二回、三年度三回とコロナ禍のなか、新型コロナウイルス感染防止のため、できるだけ密を避けて、少人数のグループに分けマスク着用とし、白老（虎杖浜）の会員二名が入会しているので、地元のパーク場でも三回実施してきた。令和四年度は、日程、開催場所は未定だが、会員増を図りながら今後検討したい。



【虎杖浜 PG 場での第四回「PG を楽しもう会」】

令和三年度は、年に一度の総会、役員会も実施できなかったが、幸いにもこの会の中に七名の役員が入会しているので相談をしながら実施してきた。また、本県人会最大のイベントである「苦小牧港まつり」が中止になり、まつりでの郷土福島「もも」等の販売も実施できなかったが、今後とも会員の親睦を図りながら活動を進めていきたい。

新会員の紹介

※今回は、ご紹介がありませんでした。

福島県からのお知らせ

全国の県人会に向けたビデオレターの撮影を行いました。

令和三年十月に開催が予定されていた、大阪での第五回うつくしま県人会交流会について、新型コロナウイルスの影響により、令和二年に引き続き、延期となってしまいました。そこで、県大阪事務所から、代替案としてビデオレターを作成したいとの依頼があり、令和三年十月中、事務局が各県人会を訪問し、ビデオレターの撮影を行いました。

時間の割り当てが当連合会で四分程度のことだったため、出演については近藤連合会長（美幌町）、小山連合会副会長（函館）、佐藤連合会副会長（旭川）、田中連合会前会長・現顧問（札幌）を中心に、各

県人会の皆様にも御協力いただき、無事撮影を終えることができました。また、今回全ての県人会での撮影ができなかったため、ビデオの最後に近藤連合会長から補足する形で御紹介させていただきました。完成については、令和四年一月中旬頃を見込んでいるとのことですので、事務局に送付ありましたら、各県人会にお配りさせていただきますと思います。福島県知事や、全国の県人会の皆様からのメッセージもごさいますので、楽しみにお待ちしております。



【道内各地での撮影の様子】

ペーパン地区県人会を訪問して
きました。

令和三年十月二十九日（金）に、
前日からの企業訪問や市場調査の
タイミングと併せて、旭川のペーパ
ン地区県人会を訪問し、会の現状等
をお伺いしました。

新型コロナウイルスの流行以前
は、毎年夏のくだもの消費拡大委員
会による、桃PRのための訪問活動
の際に開催される懇談会にてお会
いできておりましたが、昨年度から
新型コロナウイルスの影響で懇談
会が開催できておらず、なかなかお
会いする機会もなかったため、貴重
な訪問活動となりました。ありがと
うございました。

また、旭川市の指定文化財にもな
っている養蚕民家や、太田神社とい
った、福島県からの移住に関わる場
所も訪問することができ、改めて北
海道と福島県のつながりを感じる
機会となりました。



【太田神社】



【養蚕民家】

茨城・福島PR展 in 苫小牧
を開催しました。

令和三年十二月四日（土）～五日
（日）に、MEGAドン・キホーテ
苫小牧店にて、「茨城・福島PR展
in 苫小牧」を開催しました。

昨年度は新型コロナウイルスの
感染が拡大していた中であったた
め開催を見送りましたが、今年度は
道内の感染状況が落ち着きを見せて
いることから、共同開催の茨城県
と協議し、パーテーションの設置や
スタッフの体調管理等、感染防止の
ための対策をとった上で、開催する
こととしました。

前日の十二月三日（金）には、苫
小牧民報社を訪問し、取材を行って
いただき、当日はあんぽ柿や薄皮饅
頭、ままだおるなどの県産品の販売
や、人気酒造の出展による県産酒の
販売を行いました。

両日ともに多くの方に御来場い
ただきましたが、特に五日は朝から
お客様が途切れず、両県ともにお昼
頃に完売となってしまいました。

また、苫小牧福島県人会の皆様



【販売ブースの様子】



【苫小牧民報社での取材の様子】

も御来場いただき、初めての方にも
たくさんお会いすることができた
ため、とても貴重な機会となりました。
ありがとうございました。

あんぽ柿のPRを行っています。

今年もあんぽ柿の季節になりました。コロナ禍前であれば、一月に札幌市地下歩行空間でのPRイベントを開催していたところですが、今年度も昨年度と同様に、新型コロナウイルスの影響を鑑み、イベントは実施せず、報道機関等への広報活動を行うこととなりました。

また、令和四年一月二十四日(月)～二十八日(金)の五日間、セイコーマート北海道庁店(北海道庁地下一階)にて、福島県産のあんぽ柿を販売します(蜂屋柿・一個売り)。お近くの方や、近くまでいらつしゃる機会のある方は、ぜひお立ち寄りください。

併せて、お近くのスーパーなどで、福島県産のあんぽ柿を見かけた際には、ぜひ手に取っていただき、ふくしまの冬の味覚をご堪能ください。



【ふくしま生まれのあんぽ柿】

福島県のお米「福、笑い」が札幌でも販売されています。

昨年一月の県人会だよりもご紹介させていただいた、福島県の新しいお米「福、笑い」の本格販売が、令和三年秋にスタートしました。

「福、笑い」は、福島県が十四年という歳月をかけて開発したお米であり、限定された生産者のもと、厳しい基準を満たしたもののだけが名乗ることを許されています。また、「香りが立ち、強い甘みを持ちながら、ふんわり柔らかく炊き上がる」という個性的な食感・食味が持ち味です。

北海道では、札幌市の大丸札幌店にある「千野米穀店」が販売店となっており、この機会にぜひご賞味ください。(※店頭の販売状況については、販売店まで直接お問合せください。電話：〇一一・八二八・一一一一)



【福、笑い (300g)】

只見線応援団を

引き続き募集しています。

平成二十三年の東日本大震災と、新潟・福島豪雨の影響で一部区間の不通が続いているJR只見線ですが、JR東日本によれば、復旧工事は令和四年度の上半期で完了となる見通しとのことで、秋の観光シー

ズンに再開通が間に合うよう、目指すとの方針です。

県では、只見線の復旧・全国への発信に取り組むため、「只見線応援団」を設立し、一緒に応援して下さる会員の方を引き続き募集しています。寄付が必要な個人会員・法人会員と、寄付が不要な賛助会員がいますが、個人会員・法人会員の方につきましては、会員証の提示によって沿線の旅館や食堂、施設などで割引が受けられるといった特典が付いてきます。(詳細は、「只見線応援団」で検索してください。)

まだ加入されておらず、御興味のある方につきましては、ぜひ御検討いただければと思います。



【第一只見川橋梁からの只見線】